ゆめみにゅーす

YUMEMI ZOO

季　　刊　VOL. 65
発 行 日　令和４年８月５日
発行責任者　夢見ヶ崎動物公園
問い合わせ　044－588－4030

飼育展示数　哺乳類:24種154点
鳥　類:23種74点
爬虫類:10種101点
（令和4年7月末日現在）

元気です

気兼ねなく出かけられるようになるにはまだ時間がかかりそうなので、今回も動物たちの日常の一枚をお見せします。

バックヤード紹介

絶滅の恐れのある動物を繁殖させ飼育下で維持するのも動物園の重要な仕事です。それに伴い、展示でうまく暮らせなくなった高齢動物、まだ展示の環境に出すには早い幼弱動物、ケガや病気になった動物、ケガをして治療中の野生動物など、バックヤードで過ごす動物の世話も展示と同じくらい重要です。なかなかお見せできる機会がありませんが、動物を展示、お客さんに見せるだけが動物園の役割ではないことを、時々思い出していただけると嬉しいです。

＊公式フェイスブックはじめました。詳しくはこちらから。

★ピックアップ動物★

マーコール　哺乳綱　偶蹄目　ウシ科（♀、愛称シオリ）

　生まれてまもなく左後肢の血行障害を患い断脚、その後何度か手術や長い療養期間を経て群れにもなじんでいたマーコールのシオリですが、ある時から群れの中でしばしば攻撃を受けるようになってしまいました。群れで暮らす動物は、群れ全体を危険にさらしかねない、弱い個体を排除しようとします。ニンゲンはひどい、とかかわいそう、といいますが、自然界では当然のことです。最初はうまく逃げていたのですが、だんだん攻撃の頻度が上がり、群れの中で生きるのが困難になったため、離れたところで個別に飼育を始めました。本人には今の環境が合っているようで、リラックスしてけづやも良くなり、元気食欲良好です。三本足なのでそれぞれの蹄にかかる力が四本足の個体と違うのと、山を上り下りしないので蹄が削れず、時々削蹄をしています。時々こどもに間違えられますが、４歳の立派な成獣です。

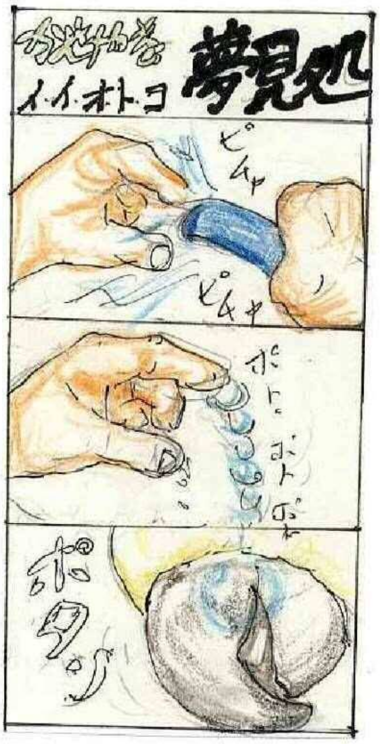
　天気の良い日はラマ舎の扉の向こう側でくつろいでいる姿が見えるかもしれません。

獣医の日記

　８頭いたボリビアリスザルがいつの間にか７頭になっているのに気づいた方もいらっしゃるかもしれません。実は 28 歳と高齢のオス、ミントがだいぶ弱ってきており、群れでの生活が難しくなってきたため、2020 年末からバックヤードで入院・隠居していました。それでも最初のうちは自分で餌も食べ、動き回っていたのですが、この数か月はほとんど寝たきりで、職員による介護が続いています。寝たきりなので時々体勢を変えてやっていますが、それでも床ずれができてしまいます。治療と並行して、毛布を二重にふんわり敷いたり、マメに体を拭いて清潔に保ったりしています。

　自力で餌を食べることができないものの、口から食べることはできるので口元に餌を運んでやります。目が見えなくても匂いや触感などで何が口元に来ているかわかるようで、好きなものだと大きな口を開けて欲しがりますが、それが食べたい気分ではない、という時は口を真一文字に結んで拒否します。

　動物園を長い間支えてくれた高齢動物にいかに快適にすごしてもらえるか、ということは、動物たちの一生を預かる飼育員、獣医師にとって永遠の課題です。



★動物たちの主な移動（令和4年5月1日～令和4年7月31日）★
アメリカアカリス（性別不明3繁殖）、ホンシュウジカ（♂1♀2繁殖、♂1♀1死亡）、ニホンキジ（♀1死亡）、パラワンコクジャク（♂1搬出→富山市ファミリーパーク）、ハイイロコクジャク（♂1死亡）、テンジクネズミ（♀1死亡）、マーコール（♂10♀3繁殖、♂7♀1死亡）